知恵の樹

No. 120 2007. 6. 29

町田の図書館活動をすすめる会

事務局:町田市森野 3-1-12　増山方
〒194-0022　FAX042-722-1243

兵庫県・多可町図書館　見学記

図書館まつり ファイナルフェスティバル をのぞいて

丸 岡 和 代

義父母の法事で帰省したおり、偶然テーブルの上の広報誌が目に留まった。3 周年を迎えた多可町図書館が、図書館まつりをやっているというのだ。私の短い滞在中に、ファイナルフェスティバルと称したイベントがあるのも分かり、早速場所を調べ、交通の便が良くないため、車を借り夫に送迎してもらって出かけた。

雨の降る土曜日、まずは、おはなし会を楽しみに出かけたのであったが、午前の催しだったとのことで大いに落胆。せめてお話室をと、職員に頼んで見せて頂く。周囲の騒音と隔離された和室の独立した部屋であった。この日、子どもたちはどんなおはなしを楽しんだのだろうか。

多可町図書館は、入ってすぐ右に児童コーナーがあり、低い書架に絵本がどっさり並べられていて、赤い模様入りのカーペットやかわいい丸テーブルが用意されている。

入口近くでは、原画や絵本を展示した「いせひでこコーナー」があったが、このあと月末に地域の大ホールで行われる「いせひでこ原画展、講演会」と連動したもののようであった。

オープンして 3 年という図書館は、本も新しく書架も木がふんだんに使われて暖かい落ちついた雰囲気。書架を抜けた奥に会議室があり、そこでは第 3 回「図書館だーいすきフォーラム」があるというのでのぞいてみた。本が大好きだとおっしゃる町長のあいさつのあと、この図書館の報告がなされた。図書館まつりは図書館協議会が参画してのまつりの由。蔵書が 77,000 冊を越えた事、住民の 18.2%が利用登録者であることなどがわかった。

講演会では、地域在住の絵本作家・鈴木千春氏が、子育て中の若いお母さんとして、自作『いたいの いたいの とんでいけ』(文芸社)の絵本ができるまでや、出版までのいきさつを新鮮に語ってくれた。

この日のフォーラムの最後は住民 11 人による「私のおすすめ本」の発表。中学生や主婦、高齢者など幅広い年齢の方々が、推薦理由を発表するのが興味深かった。どういう方法で発表者を集めたのか、苦労はなかったのかが少し気になった。おすすめ本は、藤沢周平、つかこうへい、あさのあつこ、よしもとばなな、いせひでこ、山岡荘八など日本の作家が多かったが、外国の作家としては唯一、エミリー・ロッダがとりあげられていた。

人口 25,000 人の多可町のこの図書館の広さは、616.54 ㎡、職員は正規5名、アルバイトは土・日・夏休みの平日のみ1名。

町田に帰ってからファクスで問い合わせたところ、年間の図書購入費は、なんと 1,200 万円とのこと。これは公民館図書室2ヶ所分も含んだ額の由だが、わが町田市は、年々削られて6館併せての 19 年度図書購入費は 7,830 万円。住民一人当たりの図書購入費は、多可町では 480 円、町田市は 190 円！なのである。

四方を山々に囲まれた盆地の兵庫県の多可町は緑豊かなところ。最近では価値ある恐竜の化石が発見されたりもしている。年に2,3回の帰省だが、今回は図書館に出会えてこれから先のたのしみが増した。

図書館員のさりげない温かさや親切にも触れた3月のある日の見学記でした。

「町田市子ども読書活動推進計画」のその後

「町田市立図書館児童サービス活動報告・2006 年度版」を作成

町田市立中央図書館奉仕係児童担当　**渡 部 敬 介**

はじめに

2004 年 12 月に町田市子ども読書活動推進計画が策定された。計画の期間は、2005 年度から 2009 年度までの5年間である。今年度はちょうど中間になる。今までの児童サービス活動を振り返り、今後の参考とするため「町田市立図書館児童サービス活動報告・2006 年度版」を作成した。

以下、その主だった内容を紹介する。さらに、町田市子ども読書活動推進計画と照らし合わせながら特徴や問題点について述べたい。

1　内容

「町田市立図書館児童サービス活動報告・2006 年度版」は、行事、講座、見学受け入れ、配布物事業、団体貸出、ブックスタート、展示特集、ヤングアダルト事業、文学館児童サービス事業にわけられている。

○行事：おはなし会 2006 年度参加者は、全館合計で年間 7,919 人である。そのほか、毎月行われる「おひざでだっこのおはなし会」、映画会がある。また、夏休みなどに合わせブックトーク、「にんきものをさがせ」が開催されている。2006 年、さるびあ図書館で「ひだまりだっこでおはなし会」が始まった。これは乳児と保護者を対象としたものである。

○講座：夏休み子どもﾌｪｱｰの一環として、野津田・雑木林の会および町田の図書館活動をすすめる会と共催で児童講演会「樹液をめぐる昆虫たち」（講師矢島稔氏）、また、東急まちだスターホール・まちだ語り手の会の協力で「惑星探査最前線―地球の兄弟星・金星の不思議」を行った。

○見学受け入れ事業等：全館で小中学校合わせて 23 校の見学を受け入れている。出張事業は6件。研修事業は9件であった。

○配布物事業：「みんなでよもうこどもの本」などを発行した。

○団体貸出：185団体が登録をしている。

○ブックスタート：2006年3月に新しいパンフレットを印刷した。

○展示特集：こどもたちが本を手に取りやすいように特集を組んだ。

○ヤングアダルト事業：1日図書館員や中学2年の職場体験学習の受け入れを行った。

○文学館児童サービス事業：「子ども寄席がはじまるヨッ！」「おはなしが保育室に集まった」「ことばであそぼう！」「保育室であそぼ！かるたであそぼ！」「ちちんぷいぷい」などを行った。

2　町田市子ども読書活動推進計画

次に、2006 年度に行った事業を、町田市子ども読書活動推進計画と照らし合わせてみる。

町田市子ども読書活動推進計画では、子どもの身近なところに本がある環境作りと子どもの読書にかかわる人の人材育成、配置を計画目標にしている。そして、このことをすすめるために4つの取り組みを行うとしている。

1・家庭にむけての取り組み
2・地域にむけての取り組み
3・学校における子どもの読書活動の推進
4・公立図書館における子どもの読書活動の推進

この取り組みの中に 23 の具体的な取り組みが示されている。

2004 年 12 月では、このうちの 10 事業が実施されており、残り 13 事業が未実施となっていた。

2007 年3月末では、「市民活動の情報提供」としてグループ印刷物の展示配布。「研修会の実施」では教育センターで研修会を実施。「図書情報の強化充実」として町田市ホームページの中のキッズページに児童書の紹介とお話会・行事案内を掲載する等、19 事業が実施され4事業が未実施であった。もちろん、実施された取り組みは、今後さらに充実していかなければならないし、新たな事業への取り組みも努力して行っていかなくてはならない。しかし、10 事業から 19 事業へ、ﾌﾟﾗｽ9事業に対して何らかの取り組みが行われたことになる。

３　特徴・問題点など

(1)ボランティアとの協働について

おはなし会、おひざでだっこのおはなし会、ブックトークやさるびあフェスタ等ボランティアとの協働事業が多い。

おはなしボランティアの 2006 年度登録者数は個人 110 人。グループは 10 団体(95 人)である。団体登録では地域文庫や読書会などの活動がおこなわれている。

これらボランティアとの協働は、様々な試行錯誤を繰り返し長年時間をかけて今の状態に至っている。大切なものとして継続、発展していきたい。

(2)利用件数について

児童図書の貸出は2005年度106万6千冊、2004年度 107 万4千冊である。1995 年度は 61 万 2 千冊。1994 年度 68 万1千冊である。 ちなみに一般書は 2005 年度 239 万4千冊、1995 年度 179 万6千冊で児童書と同じ様に増加している。

読書離れが言われているが、貸出数で見る限りそういう傾向はでていない。利用では、家族や大人の人が児童書を大量に借りていくのが目立つ。レファレンスも大人と児童が同じくらいである。総じて大人の利用が増えているように感じている。

おはなし会参加者は 2002 年に 10,382 名と最高に達し、2006 年度は 7,919 名とその後暫減を続けている。また参加者の低年齢化も目立っている。中央図書館おおきい子向けのおはなし会でも、小学生は数名ほどである。

一方、乳幼児向けのおはなし会はスタートから安定した参加が続いている。天候に左右されやすいと思われるが、熱心に参加してくれている。

少子化が進み、読書離れが言われる中で、利用件数のみで評価されるのは厳しい面があるが、ブックスタートの推進や、学校と協力して図書館を利用しやすくするなど働きかけていきたい。

(3)研修等について

町田市子ども読書活動推進計画では計画の目指すものとして、「1、子どもたちが読書に親しむために、いつでも身近なところに本がある環境作りをしていきます。2、子どもの読書に関わる人がいること、その人に子どもの本の知識があることはとても重要です。そのための人材の育成、配置に努めます。」と述べられている。

子どもたちが本を見るとき一番身近なのは学校図書館や公立図書館であろう。これらに関わる人のスキルアップを図るために、次の研修・講座を行った。教育センターで学校図書館関係者を対象に 2 回の研修。図書館で学校図書館関係者を対象に1回、一般を対象に 2 回の講座。小学校で保護者を対象に 2 回の講座を行なった。また、市民を対象に「おはなしボランティア養成講座」、文学館で「絵本読み聞かせ講座」を開催した。

(4)ネットワークについて

町田市子ども読書活動推進計画では、図書館と学校図書館との物流の必要性について述べられている。これを受けて「図書館協議会の提言に関わる打合せ」が、教育委員会関係者で4回おこなわれ、図書館と学校図書館との物流と司書教諭等の研修および情報交換の場などについて話し合われた。継続中であるが是非具体化したい。

また、健康課と協力してのブックスタートなど、今後、さまざまな他組織と協働して広域に子ども読書活動を進めなければならない。

４、最後に

報告書にはでてこないが、日々の配架ができているか、本が探しやすいか、利用者のニーズにあった展示がなされているか等の基本的な作業がとても大切である。また、カウンターの対応で図書館の印象が決まることもある。カウンター業務や専門知識の向上に向け担当職員も研修していかなければならない。

新たな事業展開を行うと同時に基本サービスの充実に努力していきたい。

以上、児童サービス活動について述べてきたが、「町田市子ども読書活動推進計画」は、おおむね順調に進んでいると言える。

この活動報告をまとめてみて、改めて「たくさんやっているな」ということを感じた。

もちろんこれに、日々の配架、カウンター業務、購入図書の選定、レファレンス業務、庶務などが加わるのである。やっぱり「たくさんあるなー」である。しかし、子どもの笑顔にであえる素敵な事業でもある。　　以上

楽しんでいただけたでしょうか？

中央図書館４Ｆ　児童書フロアー

小さな自然展示コーナー

2002 年 4 月～2007 年 4 月

野津田雑木林の会　久保令子

「身近で見つかる季節の自然を、生（なま）でほんのちょっとー 児童の『りか』の書架の片隅に持ち込みたいのですが・・・」と児童担当主査にお伝えすると、すぐに館長に話を運んでいただき、「企画意図と年間展示予定を文章で出してください」と伝えられ、会で書類を提出。間をおかず、「やってみましょう」と返事をいただき、主査がテーブルと看板を用意してくださって、「小さな自然展示コーナー」は、2002 年 4 月にスタートしました。

会で手に入れた“宝物”は、
「ミニミニ博物館」と名づけて陳列
写真はノウサギ
他に、どんぐり・鳥の巣、などを展示

野津田雑木林の会では、子どもたちに自然を知ってもらいたい、自然に親しんでもらいたいと、原っぱや雑木林を舞台に自然観察会やワークショップなど様々な楽しい活動を行っていますが、このコーナーでは旬の自然情報と共に、活動の中で見つけた“発見”を伝えたいと思いました。

スタートして5年、この春一区切りをつけ、コーナーは新企画で始まりました。わたしたちの写真記録から、これまでの展示のいくつかを紹介させていただきます。

皆さん楽しんでいただけましたでしょうか？

写真

『どんぐりとやまねこ』(宮澤賢治)
○　科学よみものだけでなく、ファンタジー絵本物語の紹介も

←第１回の展示は〈タンポポ〉。
○　タンポポの葉っぱを壁一面に貼り出してみました

○　詩や童話に旬の自然がみごとに取り入れられていることも伝えてみたいと思いました。

○　子どもたちが大好きなオタマジャクシ、カブトムシ、カマキリは、飼育にチャレンジしてみました
カブトムシのオス2匹、メス1匹飼っています

5年間、毎月テーマを変えて“生”を展示した「小さな自然コーナー」のフィナーレには、〈木の実生(みしょう)＝種子から芽生えた木の赤ちゃん〉を選びました。実生を植えたクリア BOX をテーブルに置き、前面に、おおきなケヤキの木の写真を貼り出しました。

その横に、「雑木林の中で種から生まれた木の赤ちゃんを見つけました。コナラ、エノキ、ヤマグリ・・・。赤ちゃんのときから、みんな、とても個性的です。“町田市の木”に指定された『ケヤキ』の赤ちゃんと大きなケヤキ。こんな小さな木が、あんなに大きく・・・」と、カードを添えて。

そして本は、すてきな言葉で自然の中へ誘ってくれるレイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』を紹介し、その一文、「もしもわたしたちが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力を持っているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない『センスオブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）』を授けて欲しいと願うでしょう・・・」を添えて。それは、わたしたちの願いでもあります。

野津田雑木林が担当する「小さな自然展示コーナー」は、今後は、春・夏・秋・冬の年4回の開設となり、それ以外の月は図書館児童担当の方が、さまざまなジャンルの展示を同じ場所で試みることになりました。―6月は図書館が折り紙の展示をしました―

“より多彩なミニ・ギャラリー”のスタートとなります。どうぞお楽しみに！

“ 開こう！ 学校図書館 ”
学校図書館全国連絡会第 11 回集会 報告
6 月9日(土) 10 時 45 分～ 16 時半
於:日本図書館協会

毎年恒例の“開こう！ 学校図書館”がさる6月９日に図書館協会にて開かれた。午前はこの学校図書館全国連絡会の世話人の一人である後藤暢(とおる)氏による講演「市民参加が図書館を支える」、午後は図書館への指定管理者制度導入案を否決へと導いた北本市子ども文庫連絡会からの報告、八王子の純心女子中学図書館司書の遊佐さんによる実践報告、全体での意見交流、と盛りだくさんで 16 時半に予定通り終了した。以下に簡単に報告する。

市民参加が図書館を支える ― 後藤 暢

ここでの図書館とは公共図書館・学校図書館両者をさす。まず懸念されるのは「改正」された教育基本法に基づく教育関係法改正(この会報が出される時は既に国会にて3法案が可決されているが)と「教育改革」の方向だ。エリートだけに重点的に教育投資をし、他の子どもの教育は切り捨てようとする新自由主義教育観や愛国心などの規範意識を教え込もうとする保守主義教育の方向が勢いを強め、これらが公民館の有料化や公共図書館の民営化・職員削減などを方向付けているともいえる。経済のグローバル化が国内では産業の空洞化、格差社会や社会保障の切捨てを生み、新とは名ばかり、古い考え方(ジェンダー批判など)とも結びついている。が一方ではヨーロッパや中南米での反米勢力の台頭などに新自由主義への批判も見られ、また図書館に関して言えば市民運動の大きなうねりも感じられる。1例として、米サリナス市での図書館閉館の危機を救った市民運動などがある。日本と世界の市民運動が近くなっていること(環境問題など)は現代の特徴といえる。

さて学校図書館だが、ここで重要なのは学校図書館条理の発見と確立の問題がある。公共図書館は歴史が長くすでに条理ができているが(たとえば「図書館の自由」)、日本の学校図書館の歴史はまだまだ浅く、未解決の問題が多い。例えば「学校図書館は図書館なのか」「子どもへの読書指導のあり方 ― 感想文の是非」など議論の対象となる問題がいくつもあり、確定していない。いわば学校図書館関係者の間ですら学校図書館像は確立していないといえるのだが、そこへもってきて教育改革の波にぶつかってしまった。これらは社会の保守化とはまったく別の次元の問題であるにもかかわらず、保守化の方向と結びつく危険性を孕んでいる。

また社会の専門職化 ―「20 世紀は専門職の時代」といわれるなかで、実は多くの専門職の「非専門職化」が起こっている。図書館職員の専門職化がいまだ十分には確立していない日本の状況の中でこの「非専門職化」に出会ってしまった困難がある。専門職制度は市民の支持によってのみ可能となる、また国レベルよりも自治体によって実現する可能性が高い。これは学校図書館で言えば、国の制度や施策がないなか、自治体に根をおいて形成され、自治体独自に配置されていることや、公共図書館でも「図書館法」で司書の職名は定められているが配置は自治体に委ねられていることなどからもいえる。

学校図書館・公共図書館を取り巻く現況を見てきたが、歴史的に見ると現在の学校図書館運動は第2の盛り上がりにあたる。一つ目は学校図書館法制定および改正運動の時期だが、しかしこの時は専門家が関わった運動で市民参加は少なかった。二つ目の現在は圧倒的に市民の力によって起こされているところに特徴がある。この 10 数年間の学校図書館充実運動への市民参加は歴史的なことといえる。考えてみれば専門職というのもはじめから法律が整備されてできるのでなく、むしろ見よう見まね、社会の要請で始め、実態があってそのあとから法的な整備がなされるものだ。たとえ新自由主義を支持する人でも図書館は必要だし子どもを大事にしたいと考えているので、主義主張で頭から反対しないことも大切ではないか。またボランティアから運動に参加する人もいるので、市民の自発性を大切にしていきたい。

この「学校図書館を考える全国連絡会」は、全国に 100 以上ある会の連絡会として、各地の会が活発に活動し互いに情報を交流しあい、それぞれが発信していくことが重要な鍵となろう。危機をチャンスに変える気持ちで取り組んでいきたい。

後藤先生のお話は、現在の一見危機的に見える状況を、しかし「味方が苦しい時は敵も苦しいのだ」というフレーズに象徴されるように、市民運動に支えられて続いてきた学校図書館充実運動をさらに発展させていくための力強いエールでした。諦めないで少しずつ前進していきましょう。

北本市立図書館への指定管理者制度導入議案否決までの経緯 ― 北本市子ども文庫連絡会

大宮と熊谷の間に位置する北本市は、人口7万人、これといって観光名所も特産物もない地方都市だとか。そうそう桜が有名。財政は豊かではなく、市立図書館の年間資料購入費は 1,000 万円、職員は正規が7、臨時が8名。06 年に市議会で指定管理者制度の生涯学習施設への導入について質問が出され、その後市から文庫連へ「図書館の運営を引き受けないか」との打診がある。文庫連では北本市立図書館の現状把握と問題点の調査や他地域でのNPO運営の図書館見学など学習会を重ね、学ぶほどに指定管理者制度では専門的なサービスが継続的にできないなどの問題点を認識した。その後パネルディスカッション(講師:山口源次郎氏)や講演会(講師:常世田良氏)などを開き、指定管理者制度への理解を深めながら同時に議会会派とも話をする。8月に文京委員会での採択は全員否決、1,100名の署名を添えて請願書を市議会議長宛提出、9月に北本図書館友の会を設立し、その2日後に議会で制度導入の市長議案は否決され、市民の運動が成果を挙げた。

以上が北本市での簡単な経緯だが、反省点としては何年か前に同様の話がでており、もっと早い時期に情報をキャッチして対策をとれたのではないかと話された。また、議会のどの会派とも中立の立場をとっておくことが大事、文庫連はわずか 10 名ほどだが、しっかり一致した考えを持ち一丸となって活動できたことがよかった、とも言われた。問題があるときは動いてくれるが、なかなか常に関心を持ってもらうことは難しく、人と人とのつながりが支えになったという。

会場からの質問にもあったのだが、この間図書館協議会はどんな動きをしていたのかあまり明確には伝わってこず、少し残念な気がした。

専門職員のいる学校図書館 ― 遊佐幸枝

八王子の東京純心女子中学校図書館は 1986 年の開校で同じ敷地内に高校・大学がある。中学の図書館は総面積 270 ㎡で蔵書は約 25,500 冊、年間購入 1,200 冊ほど。貸し出しは、生徒一人当たり 30 冊前後と中学としてはとても多い。

そこで長く専任・専門・正規職員として働いてきた司書の遊佐さんがもっとも心がけていることは、学校図書館法第2条「教育課程の展開に寄与するとともに児童生徒の健全な教養を育成する」につきる。あらゆる場面 ― 学校行事・ホームルームを含む「授業」を資料面からバックアップすることが学校図書館の役割であるとキッパリと言い切る。そのための図書館造りは、NDC順配架や除籍・廃棄、予約・リクエストの実施から始まり、本の紹介、ブックトーク、選書、図書館便り等とたくさんあるが、専任・専門性がもっとも発揮されるのは、積極的に教員に働きかけ授業に図書館を使うよう様々なアイディアを提供したり、密接に教員と授業のもち方を話し合ったりしている点だろう。正規職員として職員会にも出、さまざまな場面で図書館からの情報発信をしている。昨年の授業での使用が 150 時間で内訳も理科や国語はもちろん、美術・家庭なども含まれる。また調べ方の指導だけでなくレポートの書き方などのプリントも作り指導に当たっている。

お話を聞いた人はみな一様にそのプロフェッショナルな仕事ぶりに圧倒されたと思う。専任・専門・正規の「ひと」が学校図書館にいるということはどういうことなのか、とても具体的にイメージすることができたのではないだろうか。

町田の学校図書館を考える会としても以前見学させていただいたが、何といっても遊佐さんの個性が際立つ図書館であったことが印象的だった。専門職としての自信を持って造り上げた学校図書館の好例だと思う。

その後、質疑応答や各地からの情報交流が活発に展開、アピール文を採択して会は終了した。

(水越規容子)

ひろば

＜例会＞5月19日(土)15:00～17:45
2007年度全体会(総会もどき)
於・中央図書館中集会室

出席／伊藤、川野、久保、黒田、島尻、手嶋
広井、前島、増山、松尾、水越、桃澤、守谷、

1．2006年度活動報告 … 増山

会報「知恵の樹」110号～118号、9回発行

講演会関係その他

①4／16(日)和歌山静子さん講演会「アジアの絵本のまなざし」(会員10名、他15名)

②5／14(日)―人と自然連続講座―Ⅱ．記録映画「たまはがねー子どもがひらいた古代製鉄の道」＆姫田忠義氏講演会「鉄は宇宙からの贈り物 そして火もまた」(参加30名)

③8／8(水)夏休み子どもフェアー：矢島稔氏講演会「樹液に集まる昆虫たち」(100名余)
＊②③野津田雑木林の会の会と共催

④1／20(土)緊急集会 「病院患者図書館が欲しい！」：菊池佑氏を迎えて講演会(参加50名)

⑤3／27(火)2006年度「どの本読もうかな？」講師：広瀬恒子氏(参加 45名)

運動関係

①世論にあわせた「特設コーナー設置」についての要望書を図書館長に提出。受理され早速設置。

②病院患者図書館設置について

・集会チラシ作成、全市議・行政首脳部・メディア関係・既存参加者名簿にチラシ配布

・要望書の署名活動・・・「585名の署名簿」と「要望書」、「要望書を出すに当たって」、を市長・病院総院長宛に3/2(金)提出(⇒ありきたりの返事が1ヶ月後届く)その後の動き・・・会報108号(P7)に。

・2007年4月7日(土)講演会＆交流会「市民の求める健康医療情報とは」講師：吉田倫子さん

③3/4(日)、3/5(月)の「図書館友の会全国連絡会」発会総会およびロビー活動に参加

・2005年度の準備期間より「図書館友の会全国連絡会」に団体会員として入会/MLに、増山 加入

④「図書館文庫・友の会」に団体入会
季刊「としょかん」 40部 今年度購入

2．定例会・9回/その他
4/20,5/26,7/20,/21,10/26,11/30,12/21,1/26,2/22
・臨時例会：1/12(金)

夏休み特別企画

ビデオ上映 ＆ ワークショップ

↓ ↓

「からむしと麻」 **「からむしから糸を作って遊ぼう」**
(民族映像研究所作品：35分)

ビデオ鑑賞～カラムシで糸作り～糸を編んで腕輪作り

○ 7月29日(日)13：30～16：00
(13:00～受付/当日先着50名定員)

○ 町田市立中央図書館6Fホール

○ 費用：300円 どなたでもどうぞ！

共催：野津田雑木林の会
町田の図書館活動をすすめる会
協力：市立中央図書館(042-728-8220)

・暑気払い8/24(木)、新年会1/19(金)

3．その他：団体会員

・4／23(日)「かえで文庫」が子どもの読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰を受賞

・9／17(日)「さるびあフェスタ2006」で、「まちだ語り手の会」が「絵本ワールド」の部屋で図書館に協力

・10／27(金)町田市民文学館「ことばらんど」オープン

・10／28(土)都立図書館文字活字文化フォーラムにて「まちだ語り手の会」が実践報告「声の世界から文字の世界へ」

・9／23(土)～1/月回で、町田の学校図書館を考える会が5回に亘る「子どもの本連続講座」を開催

2006年度会計報告・・・伊藤
活動に合わせ支出も多い年で、2007年度への繰り越し金は¥24,153となる。(監査：小林)

2007年度の活動・・・次回例会(6/29/金)で
とりあえず、今年度の世話人は、
代表：増山 副代表：島尻、伊藤
会計：前島 書記：丸岡、久保
庶務：桃澤 会報スタッフ：水越、川野、増山
会計監査：吉岡

＊書き出してみると活発な活動が見えて、元気な会であるという感想を持った。

・会終了後18:00からやっと図書館に戻ってこられた吉岡さんの歓迎会を「熊」にて行う。(参加12名)

お知らせ 5月から町田市民文学館で毎月第3木曜日に「大人のためのおはなし会」が始まった。主催者(文学館)の心配をよそに、会場である入口サロンは埋め尽くされ、立ち聞きの人がでるほど。廃れてしまった囲炉裏端の語りが、違った形で全国で徐々に広がりを見せているようだ。肉声とまなざし＆ことばのキャッチボール・・・口承文学の世界は、最も人間らしい営みの場でもある。(M⁴)

町田市立図書館協議会よりの報告

町田市立図書館協議会では、前回より引続きヤング・アダルトコーナーの検討ということでヤング・アダルトコーナー設立に携わった職員及び現在の担当職員を招いていろいろお話をお伺いした。中央図書館開館当初の職員の意気込みや想い、その後の使われ方の変化をも見据えた現在進行形の改革についての考えや工夫がよく理解でき、とても有意義だったと思う。協議会としてもけしてコーナーが不要だとは考えておらず、むしろより現状に即した形での展開、コーナーの充実を願っての検討であることをお断りしておきたい。

協議会としての提案は：YAだけでなく広く一般の人も利用できるようなマンガの扱いの工夫、限られた空間では難しいとは思うがゆるやかに行き来できるようなYAコーナーの位置、そこに配架する資料についての再検討、YAをもっと取り込めるような広報のあり方（ウェブサイト・ケータイサイトの活用）などが挙げられる。次回でもさらに検討を重ねていきたいと考える。（水越）

イベント情報　夏はイベントがたくさん！

積極的に参加しましょう

○**「中学生にもっと本を！―中学校の図書館を開いてみて―」**／講師：水越規容子氏(町田市中学校図書指導員)／**7 月5日（木）**10:00～12:00／麻生市民交流館「やまゆり」会議室(小田急線新百合ヶ丘駅南口より徒歩 4 分・昭和音大近く・駐車場なし)／資料代 100 円／定員：60 名（先着順）、余裕有／主催「生きた学校図書館をめざす会」事務局：船橋(Fax) 044-969-3380

町田市民文学館
文学サロンで楽しむ おはなし会
第３回　７月１９日

【プログラム】
- **宮川哲夫の詩の世界**
- **日暮れの海の物語（安房直子作）**
- **さるのひとりごと（日本の昔話）**
- **耳なし芳一（小泉八雲）**

申し込み不要　（問：文学館 042-739-3420）

○第 7 回夏休み子どもフェアー・オープニングイベント**「子どもも大人も遊びもまちだ展」／7月 22 日**(日)10:00～14:30（雨天決行）／ ひなた村／まちだ語り手の会の**「おはなし会」は、雑木林「童話の森」の一角で**、絵本・紙芝居・語りなど／その他、遊んだり体験したり、見たり聞いたり、踊ったり・・・模擬店もあるよ！一日ひなた村で楽しく！／問合せ：青少年施設ひなた村☎ 042-722-5736

○ブックトーク入門講座(全３回)**「ブックトークを学び、ブックトークから学ぶ」**講師：中村順子さん(学校司書、杏林大学非常勤講師)／**7月 1 日・15 日・29 日**（全日曜・10:00～12:00）／藤沢市総合市民図書館2F 視聴覚ホール（小田急線湘南台下車歩 10 分）／資料費 500 円・先着 50 名・全 3 回受講生優先／申込み：岩沢(問：☎＆Fax0466-25-6693）／主催：児図研神奈川支部＆はらぺこあおむし(藤沢市図書館ボランティア)

○第 24 回**子どもの本全国研究集会 7 月 27 日(金)・28 日**（土）／調布市グリーンホール／記念講演 27 日(金)午前**「こころの目でみる、いのちの輝き」**星川ひろ子さん・講演 28 日（土）午前**「いのちの輝きを伝える漫画ー手塚治虫を引き継ぐー」**石子順さん／参加費：一般 5,000 円(両日)3,000 円（1 日）／主催：日本子どもの本研究会／問合せ・申込み：TEL 03-3994-3961 FAX03-3992-0362

○第 45 回日本親子読書センター夏の集い「人と人とのふれあいを求めて―本の世界からできること」／8 月 4 日(土)・5 日(日)／4日=講演「豊かな教育を拓く学校図書館」講師：笠原良郎さん(全国学校図書館協議会顧問)／5 日=講演「昔話とは何か？」「昔話を知る」講師：藤本朝巳さん(フェリス女学院大学文学部教授)／国立女性教育会館(ヌエック)＝東武東上線・武蔵嵐山駅歩 15 分）／主催：日本親子読書センター ☎＆Fax 042-661-2891(関谷康子)

○**2007 年夏「絵本展」7月 20 日(金)～25 日(水)**除 23 日／21 日(土)10:00～12:00=講演会「昔話からのおくりもの」講師:斉藤敦夫氏(児童文学者)／東久留米市立中央図書館視聴覚ホール(東久留米駅西口歩 15 分)／無料／主催:東久留米地域文庫親子読書連絡会 ☎042-477-7890(松原)

○**おはなしフェスタ講演会「わたしと絵本とたいこさん」**講師:長野ヒデ子さん(絵本作家)／7 月 28 日(土)14:00～／プラザイースト・多目的ホール／定員 100 名(要申込) 無料／主催:プラザイースト・さいたま市立東浦和図書館 ☎ 048-875-9977

○第35 回よこはま子どもの本の学校**「えんぴつびな・お手玉いくつ―子どもたちに平和と命の大切さを伝えよう」／8 月 15 日(水)**13:30 開演 14:00～／語りと音楽「えんぴつびな」「てだまいくつ」:阿部寿美子・他、おはなし:長崎源之助鶴見公会堂(JR 鶴見駅西口歩 1 分・フーガ1号館 6F)／大人 1,000 円(高校生 500 円)／主催:横浜文庫の会 ☎045-303-5096(村島)

○第39回全国子どもの本と児童文化講座 成田大会**「子どもと本の出会い」／8 月 19 日(日)・20 日(月)**／成田エクセルホテル東急／記念講演**「身近な自然とつきあう」**講師:今森光彦氏(写真家)／読書会・会員作家を囲む会(菊池澄子さん、真鍋和子さん、岡崎ひでたかさん、ゲスト=どいかや さん)・夜のつどい・分科会:「①赤ちゃんと幼児②低学年・中学年③高学年④中学生以上、の生活と本との出会い(4分科会)」、「科学ノンフイックションの本」「特別支援と子どもの本」「学校図書館・公共図書館」「図書館ボランティア」 計8分科会／締め切り7月末／主催:日本子どもの本研究会☎&Fax 03-3994-3631

○第 16 回全国交流集会**「これからの 子ども・本・人 出会いづくり」／9 月 29 日(土)14:00～・30(日)16:00 まで**／国立オリンピック記念青少年総合センター(小田急線参宮橋駅歩10分)／29 日＝対談 松岡享子さん(東京子ども図書館理事長)＆広瀬恒子さん(親子読書地域文庫全国連絡会代表)**「これからの 子ども・本・人 出会いづくり」**、夜「交流会」／30 日＝子どもと本を結ぶための4つの分科会「出会いづくり はじめの一歩」「出会いづくりを長年やってきて」「地球にいっぱい子どもと本をつなぐ人」「よかったよ！この本」～シンポジウム「分科会を終えて」／全日参加:5,000 円(宿泊費込み・食事別)、1 日のみ=2000 円、保育有実費／主催:親子読書地域文庫全国連絡会・第 16 回全国交流集会実行委員会 問:事務局☎0427-22-1243(増山)／定員 300 名のため、全日参加者優先

○**市民が作る図書館・全国集会**／10月28日(日)13:30～20:00／日本図書館協会 2階研修室／図書館友の会全国連絡会に参加・未参加を問わず、誰でも参加可能／定員 100 名(先着順)／参加費:第1・2 部 500 円、第3部 1,000 円／内容:図書館を変えていこう、よくしていこうと運動している全国各地の個人・団体が交流、情報交換をし、ともに図書館のありかたを考える／第1部:図書館友の会全国連絡会による図書館政策への提言、第2部:交流会、第3部:懇親会／主催:図書館友の会全国連絡会・事務局までFAX(0467－45－5731)・メール(ran74635@mte.biglobe.ne.jp)で(〆切8月下旬)

○平成 19 年度**第 93 回全国図書館大会**・東京大会**「つなげよう未来へ、ひらこう現在(いま)を 図書館は力** ―文化が集まる、情報が集まる、人が集まる」／10 月 29 日(月)～30 日(火)／日比谷公会堂、国立オリンピック記念青少年総合センター／主催:社団法人日本図書館協会 ☎03-3523-0811

○**「学校おはなしボランティア講座」** 全 7 回(土) 10:00～12:00 場所:町田市民フォーラム

		講 師
⑤「学 校 でおはなし会 をするということ」	7 月 7 日(第 2 学習室)	広瀬恒子氏(親地連代表)
⑥「ストーリーテリングについて」	7 月 21 日(第 2 学習室)	高桑弥須子氏(学校司書)
⑦「これからの町田の おはなしボランティアを考える」	7 月 28 日(第 2 学習室)	増山正子(当会代表) 市立図書館児童担当職員

主催:まちだ語り手の会／問合せ・事務局 FAX 042－795-3022
E-mail: makatari@at-duplex.bias.ne.jp/ http://www.makatari.sakura.ne.jp

知恵の樹 №1200 折り込み記事 2p 分